

## 新聞ななめ読み

朝日新聞「池上彰の新聞ななめ読み」が再開された。2014年9月14日レポートに「池上コラム問題」について、朝日「声」への掲載されなかった原稿を載せている。コラム再開は喜ばしいことであるが、その前に悲しいことを書かねばならない。

昨日2月1日朝、いつものようにテレビをつけると、「イスラム国」に人質となった後藤健二さんが殺害されたらしいというニュースが流れた。衝撃のニュースであるが、日本経済新聞1月26日「池上彰の大岡山通信 若者たちへ30」を思い出した。池上さんは「私にとって国際ジャーナリストの後藤さんは、中東取材でお世話になったことがある知人です。それだけに人質映像は衝撃でした」「戦争の悲惨さを伝えること。たとえ回り道であっても、ジャーナリストには、それしかできないのだと思います。後藤さんが無事に帰国して、人質になった顛末(てんまつ)を自分の言葉で解説する。そんな日が早く来ることを願っています」と語っている。

さて1月30日の新聞ななめ読みは、「朝日新聞の失敗 問題先送り 日本企業の典型」というタイトルがついている。朝日はなぜ長い間「吉田証言をめぐる慰安婦報道」を訂正しなかったのか。ここで私が想起するのは、バブルがはじけた後、不良債権が積み上がるのを見ながら、何もしないで処理を先送りしてきた日本の金融機関の失敗の数々です。各金融機関の歴代トップは、「自分の在任中にさえ問題が起きなければ、それでいい」と、先送りを続けたのです。



朝日新聞の対応も、同じようなものではなかったのか。そう考えると、朝日の失敗は、典型的な日本の企業の失敗と言えるのではないかと。朝日新聞は過去に金融機関の問題先送り体質を批判してきました。自社もまた同じだった。この自覚と反省から再生への取り組みをすべきではないかと思えるのです。

(2015年2月2日)